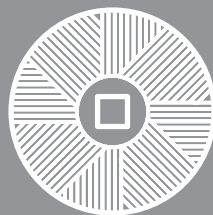
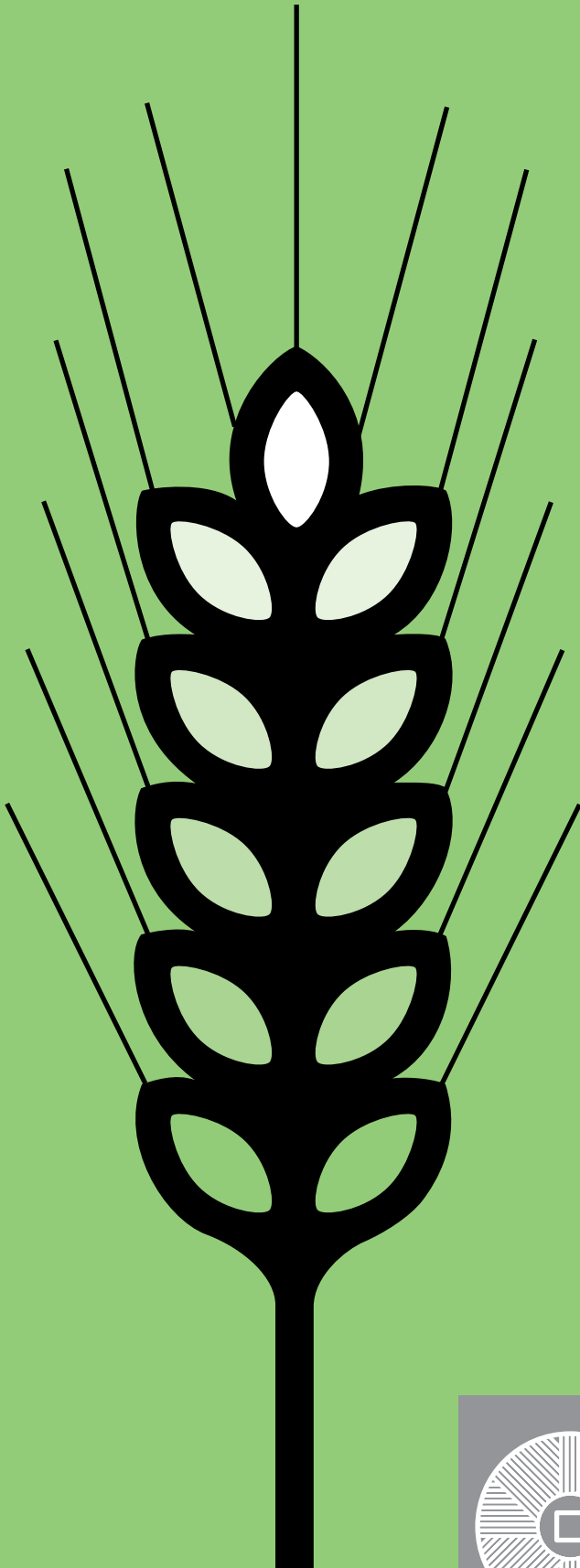


ISSN0913-8838

製粉 振興

2010
No.523
7



財団法人 製粉振興会

★目次

行政事業レビューについて…………… 3

輸入麦の売渡しに関する
即時販売方式の導入について…………… 5
農林水産省総合食料局 食糧貿易課企画班

21年産：国内産小麦の品質評価等の概要
(含新品種銘柄)…………… 11
製粉協会 製粉研究所 所長 竹谷光司

製粉と小麦粉のお国ぶり —その11—
インド…………… 18
財団法人製粉振興会参与、農学博士 長尾精一

小麦粉のある風景
「そうめん」を食べよう…………… 20
食文家 ひらのあさか

世界の粉界展望…………… 24

業務日誌…………… 22
業界ニュース…………… 23
国内資料…………… 35
編集後記…………… 43

行政事業レビューについて

昨年9月、内閣府に行政刷新会議が設置された。この行政刷新会議において、「事業仕分け」の第一弾が昨年11月に、また第二弾が本年4月から5月にかけて実施され、報道等を通じて大きな話題を呼んだのは周知の通りである。「事業仕分け」は、公開の場において、外部の視点も入れながら、国の行う事業ごとに要否や改善すべき点等を議論し判定するものであり、透明性を確保しながら、国家予算を見直すための有効な方法とされている。さらに行政刷新会議は、各省庁版の「事業仕分け」とも言える「行政事業レビュー」を行うことを本年3月に決定した。

これを受けて農林水産省においても、主要な23事業についてレビューシート（事業概要、予算の状況、資金の流れ、使途、農林水産省の自己点検結果などを記載）を公開し、5月31日から6月2日にかけて公開プロセスを実施した。公開プロセスにおいては、一般者の傍聴及びインターネット中継が行われ、外部有識者を交えて、透明性を確保しながら各事業の執行状況を点検するため、質疑や議論が行われた。さらに、6月25日には「行政事業レビュー」対象の全事業（23事業含む489事業）について、そのレビューシートが農林水産省のホームページに公表され、国民からの意見募集が7月9日まで行われた。そして、これらの「行政事業レビュー」における検証結果は、平成23年度予算要求や今後の事業執行に反映させていくこととされている。

公開プロセスが実施された23事業のうちの1つとして「麦買入費（食糧麦）」が取り上げられ、6月2日に執行状況の質疑、議論が行われた。その結果、「改善」との結論となり、あわせて、「コストの詳細を見直し、コスト削減の努力を行うべき」、「SBS方式の主要5銘柄への導入を早急に行うべき」、「マークアップの引き上げを行うべき」との意見があったと公表された。今回公開プロセスが行われた23事業の結果は、「廃止」が2事業、「抜本的改善」が14事業、「改善」が4事業、「一部改善」が3事業となり、「現行通り」は1つもなかった。「事業仕分け」は、既存の事業の在り方に第三者の視点からメスを入れるものであり、そのこと自体は有効な手法であると考えるが、今回の「麦買入費（食糧麦）」についての意見、結果を踏まえて、次の3つを整理したい。

1つには、「コスト削減の努力」は、国家予算の効率化を図るという観点からは必要な取組みであり、出来るコスト削減を実施していくことは大切である。しかしながら、一方で輸入小麦は国家貿易として調達しており、国民の基幹食糧である小麦の安定供給と安全性確保を政府が責任を持って実行するために必要な予算は引き続き確保されなければならないということも忘れてはならない。

2つ目として、「SBS方式の主要5銘柄への早急な導入」については慎重に対処し

ていくことが重要である。昨年10月の「輸入麦の政府売渡ルール検討会」の報告書において、SBS方式の拡大は、小麦二次加工メーカー、生産者を含む麦産業全体のあり方を変える可能性があることから、まずは麦産業全体の将来ビジョンを検討し、その結論を得られた後、3年程度の準備期間を経て実施することが適当であるとされた。現在は、輸入小麦の新たな売渡方式である「即時販売方式」の本年10月からの導入に向けて製粉企業、農林水産省、商社等の関係者が1年間近く協議を行い、ようやく最終段階にきているところである。まずは「即時販売方式」が円滑に導入され、しっかりと定着することに全精力が注がれることが肝要である。また、麦産業全体の将来ビジョンの検討も現時点においては、まだ開始されていない。SBS方式は国際相場がそのまま売渡価格に反映する仕組みであり、国民生活へ重大な影響を及ぼすことも考えられるため、国民の主要な食糧である小麦の安定供給をどう図っていくのか等、時間をかけて十分に検討されることが望まれる。

3つ目として、「マークアップの引き上げ」については、そのことが本当に国民負担の一層の軽減につながるものか検証していくことが必要である。今回の「麦買入費(食糧麦)」の公開プロセスにおいては、「輸入小麦にマークアップを乗せて売却していることは、国内産小麦の振興費を国民が広く負担しており問題であり、マークアップを引き下げるべき」との正反対の意見も出されている。製粉業界は一貫してマークアップ引き下げによる輸入小麦の内外価格差縮小を喫緊の課題として取組んできた。マークアップを縮小して小麦と小麦粉調製品・小麦二次加工製品の輸入国境措置の整合性をバランスさせ、小麦関連産業の国際競争力を維持・強化することにより、農業分野でも国内産小麦をさらに増使用することも可能となる。食料自給率向上の観点からもマークアップ引き下げは実現すべきテーマである。

今回「行政事業レビュー」において公開プロセスに取り上げられた「麦買入費(食糧麦)」に加えて、レビューシートをホームページに公開した489事業の中には「麦管理費(保管料)」も含まれている。これらは国家貿易による小麦の輸入を行う上での重要な予算項目であり、その内容の検証を行うことは必要であるが、一部だけを取り上げて議論するのではなく、輸入小麦の国家貿易においては引き続き安定供給と安全性が確保されることが強く望まれる。

輸入麦の売渡しに関する 即時販売方式の導入について

農林水産省総合食料局
食糧貿易課企画班

1 即時販売方式の導入

現在、小麦は需要量の約9割を外国からの輸入で賄っており、その安定供給を図ることが重要です。このため、食糧法の規定に基づき、国が国内産麦では量的又は質的に満たせない需要分について国家貿易により外国産麦を計画的に輸入しています。

22年10月からは、より効率的に業務を運営していくため、民間に任せられるものは民間に任せながら麦の安定供給を図っていく、即時販売方式を導入することとしております。

2 即時販売方式の概要

現在、主要5銘柄の輸入については、

- ① 国が商社に委託して小麦を輸入し、
- ② 地方農政事務所がサイロの状況を確認し、国(本省)が配船を行い、
- ③ 地方農政事務所が一定期間(1.8か月)備蓄として保有した後、
- ④ 製粉企業等に販売しております。

即時販売方式に移行した後は、

- ① 国が引き続き商社に委託して小麦を輸入し、
- ② 商社が配船を行い、
- ③ 本邦到着後、直ちに国が実需者に販売し、
- ④ 不測の事態に対応できるように国の計画に従って製粉企業等が備蓄を行う(食糧麦備蓄対策事業)

こととしております。(別添資料参照)

このように、現行の輸入方式と大きく異なる点は、配船及び備蓄を行う主体が国から民間に

変わることで、輸入麦を実需者に引き渡す時期が変わることです。一方、国が商社に委託して輸入を行い実需者に販売すること、政府売渡価格の改定回数や算定ルールなど、国家貿易の基本的な仕組みは現行と変わりません。

3 食糧麦備蓄対策事業の概要

現在、不測の事態に備え、国全体で月平均需要量の2.3か月分の外国産麦を備蓄しており、国の備蓄1.8か月分と民間の備蓄0.5か月分により維持しています。

世界の食料需給は、一時期のひっ迫した状況は脱したものの、今後もひっ迫傾向で推移することが予想されていることから、不測の事態に備えて引き続き国全体で2.3か月分の備蓄を保有する必要があります。このため、国は製粉企業等が2.3か月分の備蓄を保有する場合に、1.8か月分の保管料を助成することにより、適正な備蓄水準を確保することとしております。

4 おわりに

今回紹介した、輸入麦の新たな売渡しの仕組みを構築するため、製粉業界、商社など、関係者の方々と幾多にわたる協議を行ってまいりました。また、これまで2回にわたり全国各9カ所で説明会を開催し、農林水産省本省の担当者が赴き即時販売方式の説明を行ってまいりました。今後とも、制度の円滑な移行を図るため、関係者の方々への情報提供に努め、新たな仕組みに対する疑問や不安を払拭していくこととしております。

即時販売方式の考え方

即時販売方式	従前(一般輸入)
<p>1 買受申込み</p> <p>製粉企業等は、毎月、4か月後の買受け分（翌月の輸入入札分）を申込み。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バース（荷揚場所）別、銘柄別 ・ 銘柄限定はしない（一定数量に達しないものは対象としない。なお、デュラム及びプライムハードは全量がSBS（売買同時入札）方式となっているため対象とはならない。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三半期ごとに、4か月分の買受申込み ・ 5銘柄のみ
<p>2 買入</p> <p>1を踏まえ、毎月、商社を対象に、輸出国別・銘柄別に輸入の入札を行う。【資料1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入札は、原則月3回（第1週、第2週及び第3週に実施） ・ 入札ロットは、銘柄別に東日本と西日本の需要地ごとに区分して設定 ・ 配船先のバースを指定 ・ 国と商社が買入委託契約を締結 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 船ごと（船型を指定）に入札 ・ 同左 ・ 配船先は、入札後、本邦到着前に国が指示 ・ 同左
<p>3 販売</p> <p>毎月、本邦到着前に、製粉企業等と見積合せを行い、国と製粉企業等が売買契約を締結。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国が備蓄した後、月8回程度見積合せを行い、売買契約を締結
<p>4 製粉企業等への引渡し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検収（会計法に基づく審査）は、農林水産省本省において書類で実施。検収終了後、直ちに製粉企業等へ引渡し。 ・ 政府の備蓄数量はゼロ（国全体として外国産食糧用小麦の需要量の2.3か月分を備蓄）【資料2】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検収は、地方農政事務所等で実施 ・ 政府が1.8か月分備蓄（このほかに民間が0.5か月分備蓄）

入札・配船(イメージ)

【国が商社に提示する内容(イメージ)】

		〇〇月		(単位：トン)	
	ロット 群	産地 国	銘柄内訳		バース別数量内訳
			銘柄名	数量	
第1週	①	アメリカ	WW	29,000	小樽(〇〇埠頭) 1,200 横浜(〇〇岸壁) 5,000 千葉(〇〇バース) 15,000 〔東日本〕 …
					HRW
	②	アメリカ	DNS	56,000	
	③	豪州	ASW	25,000	〔東日本〕 …
第2週	①	アメリカ	WW	28,000	〔西日本〕 …
			HRW	32,000	
	②	アメリカ	DNS	56,000	〔西日本〕 …
	③	カナダ	1CW	35,000	名古屋(〇〇岸壁) 6,000 名古屋(〇〇バース) 3,000 大阪(〇〇バース) 5,000 大阪(〇〇岸壁) 4,000 神戸(〇〇岸壁) 4,000 広島(〇〇埠頭) 2,000 坂出(〇〇岸壁) 2,000 博多(〇〇岸壁) 6,000 新潟(〇〇埠頭) 1,500 那覇(〇〇バース) 1,500 〔西日本〕 …
第3週	①	豪州	ASW	35,000	〔西日本〕 …
	②	カナダ	1CW	33,000	〔東日本〕 …

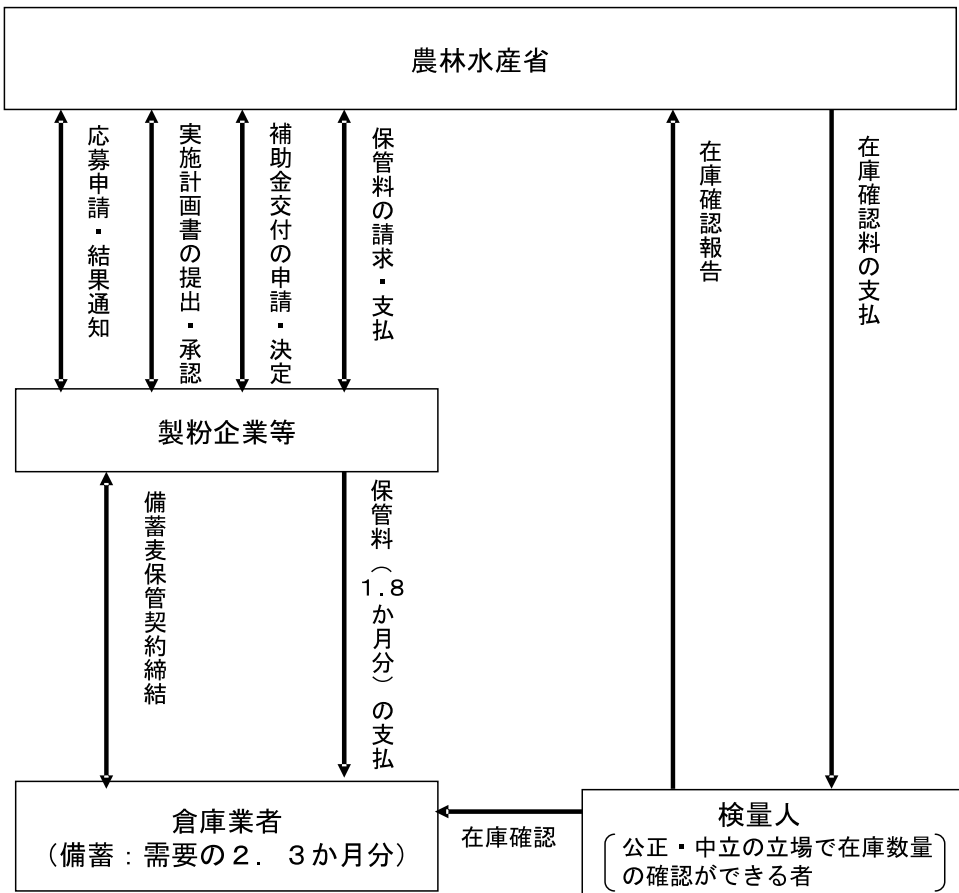
・それぞれのバースへ本船で配船するか、内航船を使うかは、商社の判断。(最も経済的な配船を行った商社が落札することになる。)

・落札した商社は、国が提示したバース別・銘柄別数量に従って配船を行うとともに、製粉企業等の要望を踏まえたサイロに搬入。

※ 従来、本船で荷揚げしているバース

食糧麦備蓄対策事業

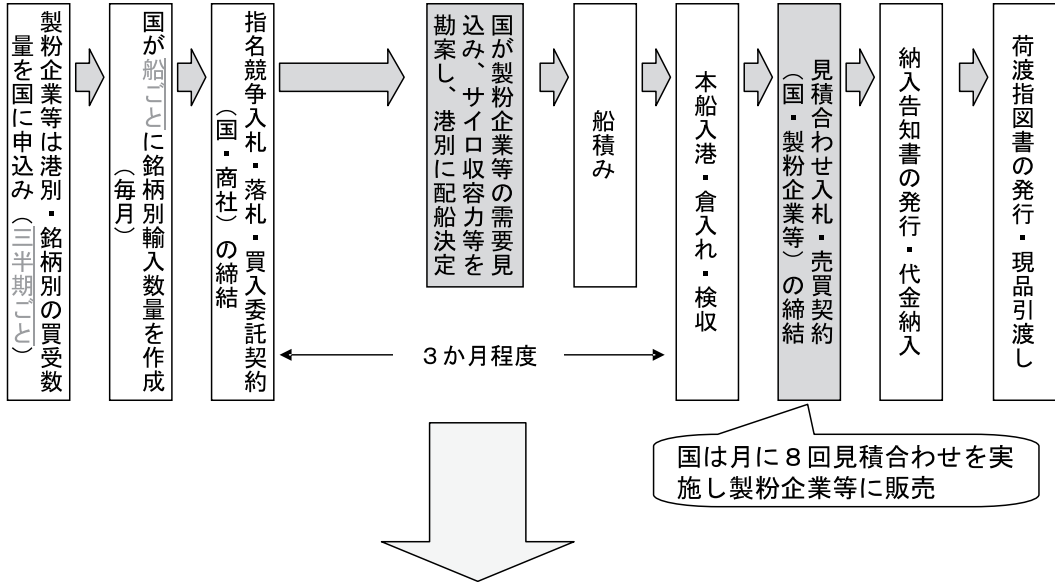
- 1 国が現在備蓄している1.8か月分を製粉企業等の保有している備蓄（0.5か月分）と一本化し、民間が2.3か月分備蓄する。
- 2 製粉企業等に対し、これまで国が備蓄していた1.8か月分の保管経費を助成する。
- 3 不測の事態が生じた場合には、国は、製粉企業等に対して備蓄する小麦の取崩し等の指示を行う。



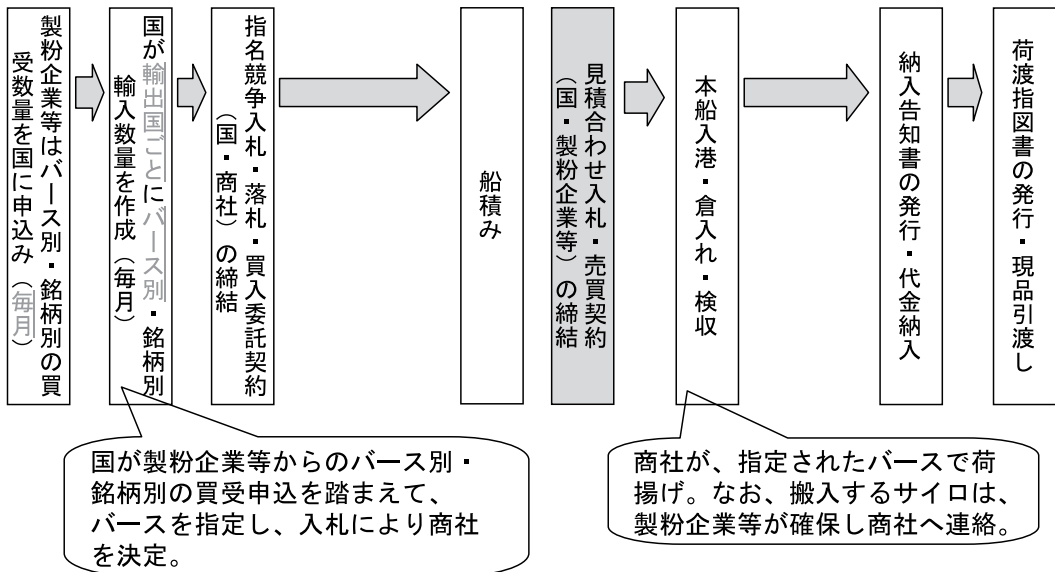
（承認された実施計画書の数量を達成した場合は助成する。（製粉企業等の責によらない場合を除いて、達成できない場合は支払われた助成額を全額返納。））

現行の販売方式と即時販売方式の比較

【現行一般国家貿易】



【即時販売方式】



21年産：国内産小麦の品質評価等の概要 (含新品種銘柄)

竹谷光司

1. はじめに

本概要は、現在収穫が進んでいる22年産小麦ではなく、昨年収穫された21年産小麦についての品質評価であることにご注意頂きたい。

農林水産統計によると21年産の10a当り平均収量対比は全国ベースで79%となり、収穫量は20年産の88万1,200トンより20万7,000トン少ない、67万4,200トンとなった。

また、各地域の10a当り平均収量対比を見ると、生産量の約59.3%を占める北海道が73%となっており、東北118%、関東・東山89%、東海89%、近畿97%、中国90%、四国64%、九州86%で地域により差は有るものの、都府県の合計で89%となり、作柄は東北を除いて全体的に平年を下まわった。

北海道は作付面積が前年より増加したものの、10a当たりの収量が全銘柄平均で前年産の468kgから344kgとなり収穫量は40万100トンと著しく減少し、前年より14万1,400トンの減少であった、これは7月の低温、日照不足及び長雨により登熟の抑制や穂発芽が多発したこと等によるものである。

都府県は作付面積が若干減少したうえ、10a当りの収量も前年比82%と下まわり、収穫量は27万4,100トンと前年産に比べて6万5,600トン(81%)減少した。これは関東では1月下旬の大雨で湿害の見られた地域が多くあり、また、登熟期が高温で推移したことから粒重の低下が見られたこと。東海では降雨による播種の遅れ、湿害、暖冬の影響や肥料の流亡等によって生育

量が不足したこと。九州では冬期間に雨が多く、日照時間は少なく、湿害の発生が見られたため、穂数が平年より少なかったこと等によるものである。

また、小麦の検査結果で1、2等、規格外の等級比率を全国ベースでみると、20年産は、それぞれ83.8、5.2、11.0%と1等比率が高かったが、21年産は北海道の低温、日照不足、長雨等の影響でそれぞれ50.0、22.4、27.6%と著しく低くなった。

10アール当りの収穫量でも全国ベースでは、14年産から4年続きで400kgを超える成績となっていた。平成18年度は383kgと減少したが、19年産は434kgとこれまでの最高を記録し、20年産も422kgであった。しかし、21年産は324kgと平成8年以来の低い収穫量になった。

毎年、製粉協会・技術委員会では会員会社工場に入荷したものの等の中から、産地品種銘柄を代表する5～10ロットをブレンドして、品質面から評価し、その結果を「国内産小麦の品質評価(主要産地の主要品種)」として冊子に纏めて関係機関に配布している。加えて、近年は新品種が続々と開発され、有望視される品種も多く出ている。この様な状況を踏まえ、新品種を新銘柄として普及させるに当たって、一般圃場での栽培初期の段階で統一基準により品質評価をすることが有意義であると考えた。関係者の協力を得つつ、15年産を初年度として「国内産小麦新品種(銘柄)の品質評価」を行い、同じく

冊子に纏めたので、これらの概要を併せて述べてみたい。(上記冊子を希望する方は、製粉協会へ申出て頂きたい。)

2. 実需者サイドが要望する国内産小麦の品質

実需者が望む主力原料小麦の条件は、毎回繰り返してお願いしていることであるが、簡潔に言えば、ロット毎の水分、灰分、たん白等がバラつかず、*要望する数値をクリアしていることである。更に、製粉適性、二次加工適性に優れていることは勿論、毎年の安定供給も重要な要件となってくる。この内の1つでも欠けると、実需者はその原料小麦の使用を躊躇することになる。

「要望する数値」とは 水分：12.5%以下で出来るだけ少ないこと、灰分：1.50%以下、たん白：10～11%、容積重が高く、形質が健全であること、デオキシニバレノール (DON) 汚染度が暫定基準値1.1ppmより出来るだけ低いこと。

「国内産小麦の品質評価(主要産地の主要品種)」より

3. 21年産：主要銘柄とその品質評価

→表1 21年産：主要産地主要品種の試験結果(抜粋) 参照

〈北海道〉

1) 「ホクシン」

平成7年に品種登録されて生産が開始され、21年の検査数量は44万9,302トンと国内産小麦の56%を占めている。

実需者サイドの評価は、「国内産小麦の中では容積重は高い傾向である。また、たん白含量も高くなりやすく、特に高いものについては粉の色がくすむ傾向がみられる。」平成14年産以

降、たん白含量は10.5%前後を推移し比較的安定していた。しかし、最近5年間では、たん白含量は1%程度の変動を繰り返しており、直近では2年連続で高くなっている。また、出回り品では地域によるバラツキも依然として見られ、今後の品質動向を注視する必要がある。

平成21年産では前年及び過去5年平均に比べ灰分が同等からやや高くなり、たん白は地域による差が大きかった

ミリングスコアは高く製粉適性は良い傾向にあり、粉の色調は悪い傾向である。ただし、平成21年産のミリングスコアは平年よりやや低く、十勝地区の粉の色調は平年よりやや劣り、群馬県産「農林61号」よりかなり劣っていた。製めん適性は粘弾性、なめらかさの点で優れている傾向にある。めんの色は平年ではやや白くくすむ傾向があり、平成21年産では群馬県産「農林61号」と比べくすみが強かった。特に十勝地区でめんの色が劣る傾向が見られた。

〈関東、中部、近畿、九州〉

2) 「農林61号」

九州から北関東まで普及し、昭和30年頃から最近まで検査数量では常に上位に位置している。国内産小麦の品質評価の際にめん試験の標準(群馬県産)として用いられている。しかし、たん白含量が低い傾向がみられるほか、近年、粉の色調は年産や地域による差が大きい。

平成21年産は、前年に比べ各県産ともにたん白含量は低く、茨城県産は過去5年間で最も低い値となったが、県産によるたん白含量のバラツキは小さくなった。

ミリングスコアは他の品種と比べて低く、製粉適性は劣る傾向にある。その中でも、茨城県産は粉の色調が群馬県産及び埼玉県産に比べてやや悪く、製粉適性は劣る傾向にある。

製めん適性は「ホクシン」などと比較し、粘弾性、なめらかさの点で劣る傾向にある。一般に国内産小麦の中では、比較的安定した品質であることは評価できるが、めんの色については必ずしも良好とは言えず、粉の色調と同様に天候の影響を受け年産による差が大きい。平成21年産については、群馬県産、埼玉県産、茨城県産ともC.G.V.が過去5年で最も良かった。

3) 「シロガネコムギ」

全国的に見ても、「農林61号」に次いで多く生産されている品種であるが、

九州地区では検査数量108,319トン中の49,968トン（46.1%）と最も多い。九州地区以外では兵庫県と滋賀県で生産されている。小麦の性状としては灰分が低めの傾向がある。たん白含量は国内産小麦の中では平均レベルであり、グルテンの質がやや弱いため軟質的である。平成21年産のたん白含量は福岡県産が9.3%、佐賀県産が10.0%と前年並みであった。また、出回り品では依然として年産や産地によるバラツキがある。製粉適性ではミリングスコアは群馬県産「農林61号」に比べやや高く、九州地域産「農林61号」に比べ高い傾向にある。60%粉の灰分はやや低く、篩抜けが良く、九州地域産の品種の中で製粉適性は比較的良好である。平成21年産については、福岡県産、佐賀県産ともにミリングスコアは平年と同等であった。めんの評価は、平成21年産は各項目とも、群馬県産及び九州地域産「農林61号」と同程度の評点であった。

4) 「チクゴイズミ」

アミロース含量が従来の国内産小麦よりも低い「低アミロース小麦」として、平成7年産より本格的な生産が開始された。たん白含量は低めで、出回り品では年産や産地によるバラツキ

が大きい。平成21年産のたん白含量は8.7%と平年並みであった。ミリングスコアは群馬県産「農林61号」と同程度であり、小麦としては粉状質であるため篩抜けが悪く、国内産小麦の中でも製粉適性は劣る。平成21年産については、ミリングスコアは群馬県産「農林61号」と比べやや高かった。めんは粘りが強い特徴のある食感である。群馬県産「農林61号」と比べ、粘弾性となめらかさの評点は高いが、かたさの点で劣る傾向にある。平成21年産についても同様の傾向が見られた。

適正ゆで時間は短く、ゆで過ぎるとやわらかくなり過ぎる欠点があり、めんは煮くずれしやすい傾向がある。

4. 品質評価まとめ

次に21年産麦について、実需者が要望する基本的な成分である水分、灰分、たん白値、及び製めん試験結果から考察してみる。（表1）

水分：製粉協会が要望する基準値は12.5%以下であるが、20サンプル中オーバーしたものが6点で、前年産と同様不満の残る結果であった。

北海道産小麦は今年も全般に高めで、茨城県産の「農林61号」、群馬県産の「きぬの波」、岩手県産の「ナンブコムギ」は高めの数値を示している。

灰分：製粉協会が要望する基準値は1.50%以下であるが、21年産は群馬、茨城、埼玉、愛知、岐阜、三重、滋賀、福岡の「農林61号」で1.56～1.69%、岩手の「ナンブコムギ」は1.59%、北海道・網走地区の「ホクシン」は1.61%と20点中16点がオーバーした。20年産は26点中19点がオーバーしており、「農林61号」は20年産同様、8点全てオーバーした。

表1 21年産：主要産地主要品種の試験結果（抜粋）

銘柄		原料試験				製めん試験(抜粋)			
		水分	灰分	たん白	*容積重	色	粘弾性	なめらかさ	合計
ホクシン	網走地区	12.4	1.61	10.7	820	12.4	19.0	11.1	70.6
	十勝地区	12.6	1.59	11.8	812	11.2	19.0	11.1	69.1
	その他地区	12.6	1.50	11.5	824	12.2	18.8	11.4	70.5
きたもえ		12.9	1.54	11.9	821	12.6	18.0	11.3	69.9
ナンブコムギ 農林61号	岩手	12.9	1.59	11.2	794	13.6	17.5	10.7	69.9
	(コントロール)群馬県	12.4	1.65	9.3	804	14.0	17.5	10.5	70.0
	茨城	12.8	1.56	9.2	788	13.8	17.5	10.5	69.8
	埼玉	12.1	1.65	9.1	793	14.0	17.5	10.5	70.0
	愛知	11.4	1.61	8.4	809	14.0	17.5	10.5	70.0
	岐阜	11.0	1.56	8.9	810	14.0	17.5	10.5	70.0
	三重	11.0	1.58	8.5	800	14.0	17.5	10.5	70.0
	滋賀	11.6	1.61	8.7	820	14.0	17.5	10.5	70.0
	福岡	12.3	1.69	9.4	818	13.6	17.5	10.5	69.6
	つるぴかり	群馬	12.2	1.53	8.1	818	14.4	19.0	11.4
きぬの波	群馬	12.9	1.40	8.1	810	15.2	18.3	11.4	72.9
シロガネコムギ	兵庫	12.1	1.51	8.6	804	14.0	17.3	10.5	69.8
	福岡	12.3	1.53	9.3	820	14.0	17.3	10.5	69.7
	佐賀	11.9	1.50	10.0	841	14.0	17.3	10.5	69.8
チクゴイズミ	福岡	12.5	1.48	8.7	816	14.0	19.3	11.4	72.4
ASW	参考	10.2	1.25	10.2	817	15.2	19.0	11.3	74.1
さとのそら	参考	10.7	1.60	8.3	804	15.2	17.5	11.1	71.8

*ヘクトリットル・キログラム計による測定換算値（ブラウエル穀粒計では経験的に20程度高く出る。）

たん白：製粉協会が要望する基準値は10～11%である。20年産は北海道産が3地区とも11.1～11.3%と高めであったが、21年産は10.7%から11.8%とバラツキが大きかった。「農林61号」は群馬、茨城、埼玉、岐阜、滋賀、愛知、三重、福岡県産が8.4～9.4%と昨年同様低くなっている。九州麦も、「シロガネコムギ」、「チクゴイズミ」は佐賀県産「シロガネコムギ」を除き、8.6%、9.3%、8.7%と0.7～1.4%低くなっている。この様な状況下、実需者側が要望している原麦のたん白量をクリアしている銘柄は、北海道・網走産「ホクシン」、佐賀県産「シロガネコムギ」の2銘柄のみであった。ランク区分の基準値9.5%～

11.5%を満足しているは、昨年の5銘柄（9地域）に対して3銘柄（4地域）となっている。

製めん試験結果：標準品には、「農林61号」（群馬）を用いているが、参考として「ASW」と今年から「さとのそら」（群馬）も入れている。本年度の「ASW」も水分、灰分、たん白は要望する条件を十分に満たし、バラツキも少なく、実需者にとってめん用の主要銘柄である。総合評価の合計点は74.1点である。21年産：標準品の群馬県産「農林61号」の蛋白は9.3%と要望値から0.7%低いが、更に低いたん白銘柄でも、製めん試験の評価点数は、それ以上の評価を受けている銘柄もある。

(「ASW」の点数を超えるものはない。)これは、低たん白小麦由来の小麦粉は概して色が良く、加えて小麦デンプンを構成するアミロース含量に大きく影響され、低アミロース、やや低アミロース含量の品種銘柄は粘弾性と滑らかさが評価されるため、総合評価は良くなる傾向がある。尚、この試験は小麦粉500gを使用した少量のテーブルテストで手作業の部分が多く、連続した作業性については把握出来ない部分がある。低アミロース・やや低アミロース小麦に関しては大型ライン製造の場合に、吸水性に伴うベタツキ、生地の弱さを原因とする落めん等がある。更に、茹時間の許容範囲が狭いことも指摘されている。従って、めん用としての主力原料小麦とするためには、食感・色を維持しつつたん白を10～11%へ近づける努力を願いたい。

「国内産小麦新品種（銘柄）の品質評価」より

5. [新品種評価への対応]

「主要産地の主要品種」の品質を評価した小冊子では、市場に出回り始めてから5年以上経過し、品質的に安定してきた銘柄を評価することが原則になっている。しかし、平成11年度から21年度迄に新品種が26品種登録され、加えて、各地の試験場で開発された品種も多く、これらの中には既に普及段階に入っている有望品種も少なくない。

実需者の立場から新銘柄として普及させる場合、一般圃場での栽培初期の段階で統一基準により品質評価をすることが有意義と考え、パン用小麦も含め、15年産を初年度として品質評価を行っている。

国内産小麦は年産、産地により、その性状に著しい差異が見られる場合があり、新品種を単年の結果で評価するには様々な問題がある。そ

のため同一品種を少なくとも3年以上は継続して試験を行い評価する必要がある。

試験対象としたサンプルは、原則として以下の条件を満たすものの中から、農林水産省及び生産者側の意見、希望を聴取して決定した。即ち、

- (1) 新しく開発され、今後普及段階に入る有望品種。
- (2) 一般圃場での栽培が開始されている品種。
- (3) 試験対象は主産地のほか、準産地、新興産地のものを対象とする。

6. [新品種（銘柄）の品質評価]

今年、この評価試験を開始してから7年目であるが、3年間継続試験後での評価対象銘柄となったのは、「めん用小麦」の「きたほなみ」と「パン用小麦」の「ゆきちから」の2品種であった。(単年度の評価は製粉協会発行「第7回国内産小麦新品質（銘柄）の品質評価」—平成21年産—参照)

I. [めん用小麦]・・・1銘柄

表2に「めん用小麦新品種銘柄の3年平均試験結果（抜粋）」と、表3に「3年平均「きたほなみ」のランク区分達成度」、を示している。これらのデータをもとに評価を纏める。

1) 「きたほなみ」北海道産

「農林61号」群馬と比べると、容積重はかなり高く、千粒重は高かった。灰分は1.35%とかなり低く、たん白含量は10.6%と高かった。この3年間では年産が進むにつれて蛋白が上がる傾向が見られた。(ホクシンと同傾向)(※別冊「国内産小麦の品質評価」参照)製粉適性では「農林61号」と比べて、歩留、ミリングスコア

表2 めん用小麦新品種銘柄の3年平均試験結果（抜粋）

銘柄	原料試験					製めん試験(抜粋)			
	水分	灰分	蛋白	*容積重	ミリングスコア	色	粘弾性	滑らかさ	総合評価
きたほなみ(北海道)	13.0	1.35	10.6	839	89.9	15.0	18.8	11.1	73.1
農林61号(コントロール)	12.5	1.62	9.4	807	77.5	14.0	17.5	10.5	70.0
ASW(参考)	9.9	1.26	10.4	822	84.6	15.5	19.0	11.3	74.3

*ヘクトリットル・キログラム計による換算値

表3 3年平均「きたほなみ」の新ランク区分達成度

品種銘柄	灰分 1.60%以下	たん白 9.5~11.5%	容積重 833g/l以上	フォーリングナンバー 300以上
きたほなみ(北海道)	○	○	○	○
農林61号(コントロール)	×	×	×	○
ASW(参考)	○	○	×(○)	○

×(○)→基準値833g/lには達していないが、20上乗せすると達成する。

共にかなり高かった。テストミル60%粉試験では、灰分は0.35%とかなり低く、C.G.V.は-2.3とやや良かった。たん白含量は9.0%とかなり高かった。また、「ASW」と比べても、歩留は高く、ミリングスコアはかなり高かった。一方、C.G.V.はやや悪かった。製めん適性は「農林61号」と比べると、めんの色と、食感における粘弾性の評点が高く、平均の評点は73.1点であっ

た。「ASW」の評点と比べると1.2点低いものの、国内産麦の中では3年間通して上位を維持した。

II. [パン用小麦]・・・1銘柄

表4に「パン用小麦新品種銘柄の3年平均試験結果（抜粋）」を示している。これらのデータをもとに評価を纏める

表4 パン用小麦新品種銘柄の3年平均試験結果（抜粋）

銘柄	原料試験					製めん試験(抜粋)			
	水分	灰分	蛋白	*容積重	ミリングスコア	体積	すだち	味	総合評価
ゆきちから(岩手)	13.2	1.62	10.8	821	79.4	7.6	13.6	15.7	62.8
1CW(コントロール)	12.3	1.57	13.6	807	82.0	8.0	16.0	20.0	80.0
ハルユタカ(参考)	12.8	1.59	12.5	840	85.3	8.0	14.9	17.1	69.4
HRW(SH)(参考)	10.7	1.43	11.5	803	83.9	8.3	15.9	17.2	69.5

*ヘクトリットル・キログラム計による換算値

2) 「ゆきちから」岩手県産

「1CW」と比べると、容積重はやや高く、千粒重は高かった。灰分は15年産が高かったため、やや高い傾向で、たん白含量は3年平均が10.8%とかなり低かった。

製粉適性は「1CW」と比べると、歩留はや

や低く、ミリングスコアは低かった。60%粉の灰分はやや高く、たん白含量は9.8%とかなり低かった。ファリノグラム吸水はかなり低く、ファリノグラムとエキステンソグラムのデータから生地性がかなり弱めであることが窺えた。製パン適性は、吸水性、作業性、官能評価の全

項目で「1CW」より低い数値となり、差は大きかった。「ハルユタカ」、「HRW (SH)」と比べても、全項目で評価は低く、差があった。なお、岩手県産「ゆきちから」は、15年産を含めての3年評価となったが、15年産は20年産、21年産と、たん白含量などいくつかの項目で大きな差が見られた。

7. おわりに

実需者側からは、品質にフレの少ない小麦の供給を機会ある毎に要望しており、今回の評価の中でも年産、地域による振れを各所で指摘している。生産者側としては、農産物である小麦の品質をブレンドすることなしに一定にすることは難しいと感じている筈である。実需者側の

立場は、二次加工ユーザーからの強い要望を受けて一定品質の小麦粉供給が使命となっている。このような状況をご理解頂き、品種改良、栽培技術の改良、制度の見直し等、可能な限りの努力を願う次第である。21年度も1品種が誕生し、この他にも有望と期待される系統が控えている。

「パン用小麦」の育種開発も強化されているが、品質と同時に年産、収量の振れ等「1CW」とは未だ開きが大きい。何れにせよ新品种が開発され一定の評価が得られたとしても、小麦の品質を見極めるには不確定要素が多く、時間が掛かることもご理解頂きたい。

(製粉協会 製粉研究所 所長)



製粉と小麦粉のお国ぶり

—その11—

インド

★小麦の生産と消費は世界第2位

小麦の生産と消費の歴史は、エジプト文明での穀物利用と同じか、それよりも古い。28州と7連邦直轄地域で穀物の消費状況はかなり差がある。沿海地区や南部の諸州は米の生産および消費地帯だが、中央部のマディヤ・プラデーシュ州、北部のウッタル・プラデーシュ州、北西部のパンジャブ州、ハリヤーナー州、ラジャスターン州などは小麦の主産地で、小麦、豆類、トウモロコシが多く消費されている。

1960年代半ばまでは、背丈が高い品種だったので倒伏しやすく、収量が低かった。「緑の革命」として知られるように、1960年代半ばにメキシコから短稈で倒伏耐性がある高収量型のSonora 64品種が導入され、農業技術も進歩して、1970年代から生産量が飛躍的に増加した。最近の異常気象で稲作の適期に雨が不足する年が多くなり、小麦の増産に力を入れているため、生産量は年々増えて8000万トンを超えるようになり、従来の米消費地帯でも小麦粉を食べるようになりつつある。

小麦の大部分は春播き性の品種を冬小麦として栽培している。10～11月に播種し、4月中旬～5月中旬に収穫する。90%以上が普通小麦で、デュラム小麦も少量作られている。粒質は硬く、蛋白質の量とグルテンの質はセミハード的なものが多い。

市場に出回るか政府の食料公社に売られる小麦は生産量の30～40%だけで、半分以上は生産

地で消費される。また、市販されるものの90%は政府経由である。政府の農業コスト・価格委員会は、生産者が食料公社に売り渡す際の公定支持価格を定めており、生産者保護と食糧安定確保を目的として買上げ、在庫として持っている。生産者による売渡しを促進するために、時々価格を操作する。在庫量を見ながら製粉業者に売り渡すシステムであり、補助金を活用して6000万人を超える貧困層に配給している。民間売買と州間の移動が制限されているが、最近、民間の小麦在庫制限を撤廃した。少し前までは輸出もしていたが、最近ではほぼ自給自足の状態で、輸入も輸出も少ない。

★小麦粉の消費は増え続ける

国民1人1年当たり平均の小麦消費量は約60kgだが、小麦地帯ではかなりの量を食べている。1人当たりの穀物全体の消費量は減少傾向だが、都市化と食生活の変化で小麦の消費量は増えている。また、人口増が国全体の消費量を年々押し上げている。

食用小麦の約85%は、「チャキ」と呼ばれる石臼の小型製粉所によって「アタ」と呼ばれる全粒粉、またはふすまを少し除いた95～97%歩留りの全粒粉に近いものに加工される。小麦粒が硬いので、アタでのん粉損傷度は高く、見かけの吸水が多い。アタは伝統的にチャパティ、プーリイ、ナン、パロンサなどの平焼きパンに加工されるが、小麦粉に要求される品質は寛容なの

で、見かけの吸水が多い粉でも十分使える。

食用小麦の約15%だけがロール式製粉工場で製粉されて、マイダ(小麦粉)、セモリナ、末粉、およびアタになる。マイダは高灰分のストリームを除いた比較的颜色が白い粉で、型焼きパン、クッキー、ビスケット、クラッカー、ケーキ、パイ、ペストリー、伝統的な菓子類などに加工される。中間所得層が2億人くらいに増え、食事に多様性を求めるようになって、ピザやハンバーガーなどの加工食品や簡便食品の需要が伸びている。ロール製粉工場のアタはマイダを採り分けた残りの粉で、ふすまが入ったチャキのアタとは品質が異なる。都会では、これにブランドを付けた包装品のアタの需要が増えている。

★小型の製粉所が圧倒的に多い

製粉業者の数は非常に多い。ロール製粉協会加盟の工場が820あるほか、チャキが25,000以上ある。ロール製粉工場の年間の製粉能力は約1,950万トンで、小麦製品の生産量は約1,250万トンなので、稼働率は55~65%である。政府管理による不安定な小麦供給、小麦が過剰な北部州からの輸送システムの不備、および工場の老朽化によるエネルギーコスト高などが、ロール製粉工場の生産量の伸びを抑えている。

★平焼きパンが主食

小麦が主食の地区では、家庭でアタからチャパティまたはロティを焼いて食べる。チャパティは軟らかさとしなやかさが特徴の代表的な平焼きパンである。小麦粉に適量の水を加えて手でこねて生地にし、室温で15~20分間ねかせる。60~100gの生地を丸め、木の丸い棒で2~3mmの厚さに伸ばす。230℃に熱した「タワ」と呼ばれる鉄板上で焼くと出来上がる。水分が飛散し、

老化が早いので、焼き立てを食べる。30~50gの生地から直径12~15cm、厚さ1~2mmに焼き上げたものは「プルカ」、130~160gの生地から直径20~25cm、厚さ2~3mmに焼き上げたものが「ロティ」と呼ばれるが、基本的にはチャパティと同じである。

薄いクリーム色のチャパティが好まれるが、パンジャブ州の都市では80~86%歩留りのやや白い粉のものが好まれる傾向にある。チャパティの色は、小麦の品種、粉歩留り、製粉方法、小麦のかび汚染などの影響を受ける。トウモロコシ、モロコシ、ミレット、ヒヨコマメなどの粉を混ぜたチャパティも食べられているが、それらの混入率は25%以下がよい。家庭で食事のたびにつくるが、都市化の進展で工場生産のものも出始めている。

ルーマリ・ロティは比較的白色小麦粉を用い、50~100gの生地からつくる直径30~35cm、厚さ1mmのものである。タンドーリイ・ロティは全粒粉を用い、100~150gの生地からつくる直径12~15cm、厚さ3~5mmのもので、粘土製のかま(タンドール)を木で燃して焼く。

プーリイは小麦粉または全粒粉に塩、油脂、水を加えた生地40~50gを直径10~15cm、厚さ2mmにし、190℃の油で45~60秒間きつね色に揚げる。パロンサはチャパティの生地を鉄板で両面を焼いて、油脂を両面に塗ったものである。

ナンは、小麦粉、塩、水、バターミルク、カード、ヨーグルト、ベーキングソーダ、パン用イースト、卵、ゆでたジャガイモ、天然酵母などを材料にする。生地を混ぜ、4~6時間発酵し、必要ならガス抜きをする。80~100gに分割、整形し、20分間ねかす。厚さ3mmにし、タンドーリイ・ロティの場合と同じように焼く。

(財団法人製粉振興会参与、農学博士 長尾精一)

「そうめん」を食べよう

ひらの あさか

落語にみられる「半可通」とは

「半可通」とは、いい加減な知識しかないのに通人ぶる人ことをいいますが、そういう人物が落語にはよく登場します。その御仁、まず「世の中に知らないことはない」といわんばかりで、そういう人物にひと泡ふかせようと、手ぐすねを引いて「半可通」いじめをする落語は、江戸落語に多くありますが、中でも有名なのが「酢豆腐」。

のちに上方落語に渡ったこの演目は「ちりとてちん」。ある家の旦那が、お向かいに住む金さんを座敷に招いてごちそうする。金さんはふるまわれた鯛の刺身や鰻の蒲焼きを「生まれて初めて食べました」といいながら旨そうに食べる。話がすすむうち、近所に住む竹さんという人物が話題になる。この竹さんは金さんとは正反対の性分で、ごちそうしても素直によるこぶということがない。なんとかして知ったかぶりをする竹さんにひと泡吹かせようと相談を始める。ちょうどいいことに、水屋で腐った豆腐が見つかり、これを「長崎名物 ちりとてちん」として竹さんに食べさせようと相談がまとまる。そうとは知らない竹さんは案の定「ちりとてちん」を知っているというので食べさせてみると、ひと口で悶え苦しむ。旦那が「どんな味や?」と聞いてみると竹さんは「ちょうど豆腐の腐ったような味

や」というオチがつく。

落語にあらわれた「そうめん」

さては本題、上方落語の「そうめん喰い」大食で知ったかぶりの八公に、ひと泡吹かせようと、三輪の長そうめんを長いままに折らず、切らずにゆであげ、大きな鉢に入れて八公に食べさせる。そんなことを知るはずもない八公は、つゆのつけ方について自慢げに話し、そうめんを箸に挟んで持ち上げようとしますが、あまりに長くていくら手を上げてもち上がらない。立ち上がってもだめだったので、二階の階段をそうめんを箸に挟みつつ上がっていくが、とうとう足を滑らせて階段から落ちて、腰を思い切り打ってしまう。そうめんが長く階段にひっかかり、下まで続いていて「おい見ても、きれいなこと。まるで箕面(みのお)の滝みたいや」「道理で腰を打ったんや」箕面の滝は、滝壺に落ちる直前に岩に当たって腰折れになっているところから、これがオチとなっています。

江戸川柳に歌われた「そうめん」

この「そうめん喰い」のような長いそうめんを歌った江戸川柳、俳風『柳多留(やなぎだる)』にこのようなそうめんに関する句がいくつかあります。今のようにそうめんは、

切り揃えられたものではなく、かなり長いものだったので「そうめんの長々しいを壺人喰い」「折り返す冷やそうめんの観世水」長いそうめんが、冷水に渦巻きのように折り返して放たれているようすがあらわされています。

夏向きの「そうめん」

「焼きなすのせそうめん」なすはヘタをつけたまま、がくの部分を切り取り、ところどころに包丁で切れ目を入れる。グリルで全面が黒くなるまで焼く。焼きたてのうちに皮をむき、ヘタを切り落として、食べやすい大きさに裂く。鍋にかつおぶしでとっただし汁、煮切りみりん、うすくちしょうゆを合わせて沸騰寸前に火を止める。この汁と先ほどの焼きなすの粗熱がとれたら、合わせて冷蔵庫で冷やす。そうめんは、たっぷりのお湯でゆでて、冷水でよく洗いなすのぬめりをとり、ざるにあげ水気をきる。器にそうめんを移してつゆをかけ、冷やした焼きなす、好みでみょうがと大葉のみじん切りをのせていただきます。ここへ梅干しを酒で溶いた梅汁をかけてもおいしい。

「しいたけつゆのそうめん」干しいたけのスライスには水につけてもどし、煮切りみりん、水、こいくちしょうゆ、砂糖、もどしいたけを合わせやわらかく煮て、粗熱がとれたら冷やす。鶏ささ身は筋をとって、酒をふり、ラップをかけて電子レンジで加熱して細く裂く。そうめんをゆでて、冷水で洗いざるにあげて水気をきる。器にそうめんを入れてしいたけのつゆ、しいたけ、ささ身をのせ、青ねぎの小口切りを散らす。

「豆乳スタミナキムチそうめん」豆乳に水、鶏ガラスープの素を合わせて煮立て、粗熱をとって冷やす。肉みそをつくる。鍋にごま油をひいて、にんにく、しょうが、長ねぎのみじん切りを炒めて豚ひき肉を加えてさらに炒め、酒、豆板醤、みそを加えて火からおろして粗熱をとる。そうめんをゆで、冷水で洗いざるにあげて水気をきる。器にそうめんを移して、豆乳スープを注ぎ、肉みそと白菜キムチ漬け、白髪ねぎ、白ごまをのせる。

「炒めそうめん」のレシピ

「豚肉とゴーヤのそうめんチャンプルー」ゴーヤは縦半分に切って種をとって薄切りにする。豚バラ肉は食べやすい大きさに切る。そうめんは固めにゆでて流水でよく洗い、しっかり水気を切る。フライパンにごま油をひいて、豚バラ肉、ゴーヤの順に炒め、塩とこしょうをかける。ここに溶き卵を加え炒り卵状にしてから、そうめんを加え炒め、しょうゆを入れて全体を合わせ、器に移してかつおぶしをのせる。

「青ねぎそうめんチャンプルー」そうめんは固めにゆでて流水でよく洗い、しっかり水気を切る。青ねぎは2~3cmに切り、ごま油で炒めそこへそうめんを加え、塩、こしょう、ナンプラーで味を調える。シンプルなチャンプルーですが病みつきになる味です。

(食作家)

参考文献

江戸川柳飲食事典 渡辺信一郎 東京堂出版
(社)日本麺類業団体連合会ホームページ
桂米朝集成 第2巻 桂米朝 岩波書店

業務日誌

業務

平成22年7月の構造改善事業審査結果

前回から7月までに事業を完了したもの、およびこの間に提出された事業計画の審査を完了したものは次のとおりである。

- ① 完了報告関係(助成金交付額決定)

- ② 計画書関係(助成対象とする内示)
安全・品質管理施設に対する助成 …………… 2件

構造改善事業等助成実施状況調 (45事業年度) (平成22年7月現在)

項 目	区 分	助 成 金 交 付 額	
		件 数	金 額
構造改善事業			千円
転 廃 業 助 成		—	—
製品の物流合理化施設助成		—	—
安全・品質管理施設助成		—	—
安全・品質管理の認証取得等助成		—	—
計		—	—

調査広報

★平成22年7月23日 = 「製粉振興」7月号の編集委員会を開催した。

業界ニュース

★「七夕・そうめんの日」イベント盛況

—「願い事」叶いますように……—

全国乾麺協同組合連合会は「七夕・そうめんの日」のイベントとして全国各地の銘産品のそうめんを7月6日（製粉会館玄関前）、7日（銀座数寄屋橋公園）サンプリングした。毎年のごとではあるが、イベント開催日の天気が気になる。今年も願いが届いたのか、両日とも朝方まで降っていた雨がイベント開始2時間前には上がりホットさせられた。

しかし、主催者としては、準備する午前中「雨」が降っていただけに「決行か」「中止か」で悩んだことは事実。そこで決断。「決行」と決めてからは、みるみる雲間から太陽が覗き、梅雨時の蒸し蒸しする「そうめん日和」に大変化した。7月6日の製粉会館玄関前では、15分前頃から通行人が会館をとりまくように、昨年を上回る長蛇の列ができホットした。年々列が長くなっていることから今年はサンプル数を増やしたが、好評で配布開始から20分程度で終了。翌日の7日は、銀座数寄屋橋公園の宝くじ売り場前が、今年はジャンボ宝くじの発売日と重なり、止むを得ず人通りが少ない泰明小学校側の数寄屋橋公園での開催。前日同様サンプリング開始前には長蛇の列ができ、蒸し暑い中での列、団扇をプレゼント。サンプリング開始の正午前には100人以上が並び、主催者は、「乾めんのハッピー」を着用、各全国各地の銘産品のそうめんを2束セットにしてサンプリングを開始。こちらも予想以上に好評でサンプリングが盛会で終了。イベントは、大手製粉会社の若手社員、乾めんメーカー、学生アルバイト達が主役となって会場

を盛り上げ、乾めんの風袋を利用しての手作りの七夕飾り等七夕らしい雰囲気を出させ、短冊の輝きがサンプリング会場を華やかにした。また、イベント会場を取り巻くように各地ブランド名を染め抜いた幟を並べ、さらに会場を盛り上げた。サンプル総数は、2日間で13,000食。

全国乾麺協同組合連合会では、七夕・そうめんの日について、『「何故、七夕にそうめんを食べるの……」といった質問を受けることが多いという。平安の頃から五節句の七夕にそうめんを食べると願い事が叶う。例えば「疫病にかからない」「ハタ織りが上達する」「縁結び」等と言われ、だから貴族も庶民もこぞって、昔は「七夕にそうめん」を食べる習慣があったようだ。七夕にそうめんを食べ「願い事が叶う」という習慣づけをしたいと訴える。今、現代にこの「平安」の習慣を、再び呼び起こしたく、「七夕にそうめん」を食べよう推進している。』と「七夕・そうめんの日」について、サンプリング会場でも熱っぽく訴えていた。

【東京・安藤】



—七夕・そうめんの日サンプリング—
於：銀座数寄屋橋公園



世界 (1) 2010/11年度の小麦生産量は6億6,000万トン、消費量は6億5,400万トンで、在庫

が増。

国際穀物理事会(IGC)による2010/11年度の小麦需給予測を[表1]に示した。生産量は前年度比1,600万トン減の6億6,000万トン、消費量は700万トン増の6億5,400万トンで、期末在庫量は2億100万トンに増える。

(IGC-GMR・400/10)

(2) 2010/11年度の小麦貿易量は前年度比70万トン増の1億2,020万トン。

IGCが予測した国別小麦貿易量を[表2]に示した。2010/11年度の総貿易量は1億2,020万トンで、前年度より70万トン多い。イランは生産が増えるので120万トン減の180万トン、シリアも半減の100万トンだが、イラクとサウジアラビアの輸入は増える。北アフリカは生産が減るので、アルジェリア、モロッコ及びチュニジアで輸入が増える。ブラジルは生産が少し増えるが、70万トン増の700万トンを輸入する。トウモロコシ価格の下落で、韓国やフィリピンの飼料用小麦輸入は減る。ウクライナは供給余力低下で、290万トン減の650万トンを輸出する。ロシアも生産が減ったが、在庫があるので前年度と同量の1,800万トン輸出の見込み。アルゼンチンは生産が回復し、300万トン増の650万トン

を輸出する。EUは黒海地域との競合があるが、アフリカの需要が旺盛なので、60万トン減の1,890万トンを維持する。アメリカは90万トン増えて2,380万トンの輸出見込みだが、カナダとオーストラリアは生産減を反映して輸出も微減する。

(IGC-GMR・400/10)

(3) 2009/10年度の小麦粉貿易量は前年度比2.8%増の1,260万トン。

IGCが予測した小麦粉貿易量を[表3]に示した。2009/10年度の総貿易量は1,260万トンで、前年度比2.8%の増加である。イラクは6.7%増の110万トンを主にトルコから輸入する。イエメンの輸入も18万トンに増える。リビアは70万トンに減る。ウズベキスタンのカザフスタンからの購入量は増え続け、140万トンになる見込み。最大の輸入国のアフガニスタンはさらに増えて160万トンになる。カザフスタンが最大の輸出国で、前年度比9.8%増の300万トンを輸出する。トルコが第2位で、15.7%増の250万トンをイラクなどへ輸出する。アルゼンチンとEUは共に減少して130万トンを輸出する。アメリカは45万トンをパキスタンなどへ輸出する。

(IGC-GMR・400/10)

(4) 2010/11年度のエタノール用穀物消費量は1億3,810万トン、小麦は720万トン。

[表4]はIGCによるエタノール用穀物消費量である。2010/11年度は前年度比730万トン(5.6%)増の1億3,810万トンになる。アメリカが86%に相当する1億1,860万トンを使う。EUでの小麦使用量が増えて610万トンになり、カナダと中国でも使うので、全世界では720万トン消費する。

(IGC-GMR・400/10)

(5) 国際製粉技術者協会の年次大会の主テーマは安全性。

I.A.O.M.(国際製粉技術者協会)の2010年の年次大会は、4月19～23日にラスベガスで開催された。基調講演を含めた今大会の主テーマは「安全性」で、製品の安全性と従業員の安全性の両面が真剣に議論された。

(MBN・89-6/10)



アメリカ (1) 2010-11年度
の小麦は生産が減り、消費が増え
るが、期末在庫は最多に。

合衆国農務省5月11日発表の小麦需給は[表5]である。生産は5,560万トンに減り、食用消費は少し増え、輸出も少し回復して2,449万トンだが、期末在庫は最近で最多の2,713万トンに増える。

(MBN・89-6/10)

(2) 5月の小麦生産者手取り価格はブッシェル
当たり4.39ドル。

合衆国農務省発表の5月の全小麦生産者手取り平均暫定価格は4.39ドル/ブッシェルで、前月比3セント安、前年同月比1.45ドル安である。冬小麦は4.10ドル(前月比9セント安)、デュラム小麦は4.27ドル(同4セント高)、デュラム小麦を除く春小麦は5.04ドル(同15セント高)である。

(World-Grain.com・June 03/10)

(3) CSM社がベストブランドズ社を買収。

オランダに本社がある世界規模のベーカリー製品メーカーのCSM社は、ミネソタ州に本社があるBest Brands社を5.1億ドルで買収した。ベストブランドズ社は全米に6工場を持ち、包装した生地、ケーキ、マフィン、フィリングおよ

びミックスを製造している。この買収でCSM社は北米市場での高付加価値冷凍製品でリーダー的な存在になれば、23億ドルの売上高を見込んでいる。

(EB・109/10)

(4) カナダのViterra社が製粉会社を取得。

カルガリーに本社があるViterra社は5月のDakota Growers Pasta社の買収に続いて、カンザスシティに本社がある21st Century Grain Processing社を買収した。買収金額は9,050万ドルである。買収された会社はテキサス州Amarilloに小麦製粉工場(小麦粉日産能力227トン)、ネブラスカ州South Sioux Cityにエンバク製粉工場(日産能力295トン)を持つ。小麦製粉工場では小麦全粒粉、パン用粉、トルティーヤ粉を製造している。

(MBN・89-7/10)

(5) 4月の小麦全粒粉パン価格は前月に続いて
上昇。

合衆国労働省によると、4月の型焼き白パン平均小売価格は1ポンド(約454グラム)当たり136.3セントで、前月比0.5セント、前年同月比3.2セントの下落である。小麦全粒粉パンは182.1セントで、前月比2.8セント高、前年同月比9.3セント安である。家庭用小麦粉は1ポンド当たり47.3セントで、前月比0.6セント、前年同月比1.2セント安である。パスタは113.2セントで、前月比1.3セント安だが、前年同月比は1セント高である。

(MBN・89-7/10)

(6) 2009年のライ麦粉生産量は前年比7.1%減。

合衆国農務省によると、2009年のライ麦粉生産量は45,541トンで、前年の49,034トンに比べ

て7.1%の減少である。最近の最高だった2007年の66,498トンに比べると31.5%も少ない。

(MBN・89-7/10)



イラク 国内産小麦の買上げ価格を引き下げ。

政府は5月13日付けで、国際穀物価格の下落を受けて、国内産小麦の政府買上げ価格の引き下げを発表した。トン当たり20万イラクディナール(169米ドル)引き下げ、65万イラクディナール(549米ドル)になる。

(IGC-GMR・400/10)



インドネシア トルコ的小麦粉にダンピング防止輸入関税を課すことを決定。

トルコから不当に安い価格で小麦粉が流入しているとして製粉協会が陳情していたが、政府はこれを受け、トルコの6取扱業者に対してダンピング防止輸入関税を課すことを決定した。2008年にはトルコ的小麦粉輸出量の19%がインドネシア向けで、取引額は1.18億米ドルだった。トルコからインドネシアへの総輸出中で小麦粉が41%を占めていた。トルコからの輸入小麦粉によって国内の小麦粉生産量が8.7%減少したという。

(World-Grain.com・June 3/10)



ウクライナ (1) 小麦粉消費が減少傾向で、製粉工場の稼働率は3割台。

経済省によると、小麦粉生産量は今世紀初めから安定しており、年に300万トン弱だが、1990年にはその約2倍だったので大幅の減少である。2009年7月から2010年1月までの7か月間の小麦粉生産量は140万トンで、前年同期

比13%減である。減少の主因はパン類生産量が前年同期比8%減だったことにあるが、パスタ生産量も8%減少した。政府がパン価格を管理し、ベーカリーや小売店の利益を低く抑えていることが小麦粉消費減の主因のようである。国連は2006年に1,009の製粉工場があったと報告しているが、経済省はベーカリーが持つ200の製粉工場を含めて約600の製粉工場があるという。国全体の製粉能力は約1,100万トンで、稼働率は30~38%と推定される。大型の製粉工場が約70%を生産しているが、零細の工場も多い。

(WG・28-4/10)

(2) 小麦粉生産量は大手および中型企業に集中の方向。

全小麦粉生産量に占める上位25社の生産量の比率は年々上昇しており、2005-06年度には43%、2006-07年度には46%だったが、2009-10年度の最初の8か月の生産量は90.33トンで、比率は55%になった。25社の中には国営の5社も含まれている。

(World-Grain.com・April 12/10)



オーストラリア CBH社が2009-10年度プールの初期分配額を発表。

パースに本社があるCBH社は2009-10年度小麦プールの第1回分配額を発表した。APW1小麦のトン当たりで、サウス・オーストラリア州産は56.40オーストラリアドル(A\$)、ビクトリア州産はA\$56.90である。現時点での推定プール返還金はサウス・オーストラリア州産がA\$250、ビクトリア州産がA\$252の見込み。ウエスタン・オーストラリア州産はすでにAPW2小麦に対してA\$50.37が支払われている。

(World-Grain.com・April 14/10)



カザフスタン 穀物輸出補助金を増額。

政府は中国向け穀物輸出の補助金をトン当たり40米ドルに増額する。補助金は中国向けだけでなく、中国経由で韓国や東南アジアに輸出される分にも適用される。同時に、ロシア地区経由の運賃補助金もトン当たり20米ドルから40米ドルに引き上げる。この補助金はロシア経由の40万トン、中国と東南アジア向けの20トンに適用される。

(World-Grain.com・April 15/10)



カナダ 2009/10年産小麦の生産者への初期支払額を上積み。

カナダ小麦局は5月28日付で、2009/10年産小麦の生産者初期支払額の増加額を発表した。バンクーバーまたはセントローレンス渡しのトン当たりの価格(カナダドル)で、銘柄、等級、および蛋白量によって差があり、追加額は5~44.65カナダドル(CA\$)の範囲である。No.1CWRS小麦は、当初のCA\$178に今回のCA\$10が加わり、初期支払額の合計はCA\$188になった。なお、初期支払額の支払はカナダ政府によって保証されている。

(World-Grain.com・June 1/10)



サウジアラビア 小麦輸入規格を改定。低蛋白小麦の輸入も可能に。

リヤドのオーストラリア大使館によると、政府が輸入小麦の品質規格を改定し、最低蛋白量をこれまでの12.5%から11.1%に緩和し、麦角の許容限度を0.045%に引き上げた。これによって西オーストラリア産小麦もテnderに参加できる。

(IGC-GMR・400/10)



スイス Syngenta社が CIMMYTと小麦の共同研究。

Syngenta社(本社はバーゼル)は、メキシコの国際トウモロコシ・小麦改良センター(CIMMYT)と小麦の共同研究を行う。契約には従来法と遺伝子組換えによる特性、雑種小麦、および収量増を目的とした種子と作物保護が含まれる。

(World-Grain.com・April 06/10)



パキスタン (1) 庶民の購買力低下で小麦消費が減少。

小麦粉価格の値上がりによって購買力が低下しており、年間小麦消費量が10%減少した。小麦生産量は2,300万トン程度で推移しており、在庫もあるが、必要量を買えない国民が増えている。不安定な食料事情の地域や家庭が増えており、この状況がテロの温床になりかねないと懸念されている。

(World-Grain.com・June 3/10)

(2) 製粉会社が小麦粉価格を引き下げ。

4月26日、製粉協会は小麦粉の値下げを発表した。同日から工場出荷価格で20キログラム袋当たり557パキスタンルピー(Rs)からRs530に値下げした。旧価格は小麦の市場価格が40キログラム当たりRs1,000の場合だが、現在はRs750~800に下がっている。

(World-Grain.com・April 25/10)



ハンガリー 経済状況の悪化で、八方ふさがりの製パン会社。

2009年のベーカリー製品は、価格上昇によって売上高は前年比2%増えたが、販売量は4%減少した。手づくりベーカリーの売上高が産業全体の80%を占めているが、販売

量の4%の減少は手づくりベーカリー製品の落ち込みによるもので、工場規模でつくられる包装製品の販売量が少しずつ増えている。包装しないケーキは伸びている。冷凍製品の売上高は2009年も4%伸びた。包装製品が伸びている理由は、ブランド力、配送の改善、および日持ちと良い包装を求める消費者の要望に沿っていることである。トップメーカーはCeres Sutöipari社で、2004年以降の5年間でシェアを2倍に伸ばしたが、それでもシェアは2%に過ぎない。白パンが販売の2/3を占めており、政府の全粒粉パンを推奨する健康キャンペーンにもかかわらず、安い白パンが売れている。同社は大手では唯一の国内資本による製パン会社で、3工場でパン、ロール、ケーキ、ペストリーなど幅広い製品を製造している。競合他社はChipita International、Danesita Hungaria、Wasabröd、およびDAHLLI-Kuchen Franz Dahlhoffの各社だが、いずれも外国の会社の現地法人である。これらのどれもがパンの分野では大手ではない。企業も個人も経済状況の混乱から抜け出せない状況が続いている。失業とインフレに加えて、増税が消費行動を冷え込ませている。人口もこの10年間で3%以上減少し、間もなく1,000万人を切ると思われる。製パン会社にとって輸出がライフラインの一つで、通貨が弱い今がチャンスだが、市場拡大に必要な資金が不足している。

(EB・109/10)



フィリピン 政府が11の製粉業者に小麦粉価格の引き下げを指導。

通商省は11の製粉業者を小麦粉で不当利益を得ていると告発し、最高で25キログラム当たり630～680ペソに引き下げよう指導した。11社

中7社はフィリピン製粉協会の会員(General Milling、Liberty Flour Mills、Pilmico Foods、Philippine Flour Mills、Republic Flour Milling、Universal Robina、Wellington Flour Millsの各社)で、直ちに工場出荷価格で630～680ペソに引き下げると発表した。非会員のPhilippine Foremost Milling社はすでに580ペソに下げたと述べた。他の3社(Delta milling Industries、Morning Star Milling、San Miguel Millsの各社)はまだコメントしていない。政府は1～5月の国際小麦価格が259～277米ドルで、2007年1～9月の217～334米ドルとほぼ同レベルになり、小麦の輸入関税もゼロにしているが、小麦粉の工場出荷価格は2007年の610～670ペソに比べて平均で770～790ペソの高値だと告訴理由を説明している。製粉協会会員会社は政府の指導に従ったが、実際的小麦買付価格はそんなに低くなく、この売値では損失が出る恐れがあるという。製パン会社も製品値下げを検討しているが、製粉会社がこの価格で必要量を供給してくれるか、注目している。

(World-Grain.com・May 27, June 18/10)



モロッコ 国内農家保護の目的で小麦の輸入関税を引き上げ。

政府は6月1日から12月31日までの期限付きで、小麦の輸入関税を普通小麦は90%から135%に、デュラム小麦は80%から170%に引き上げた。ICCによると、2010年の小麦の国内生産量は400万トン(前年は640万トン)で、2010/11年度には430万トン(前年度は180万トン)の小麦を輸入すると見られる。国際市場での価格安から国内農家を保護するのが目的だというのが、経済的なねじれが起こる可能性がある。

(World-Grain.com・May 13/10)

[表1] 世界の小麦需給

(百万トン)

	06/07	07/08	08/09(推定)	09/10(予測)	10/11(予測)
生産	598	609	686	676	660
貿易	111	110	136	120	120
消費	610	613	639	647	654
期末在庫	124	121	167	195	201
前年度比	-13	-3	+46	+28	+6
5大輸出国*	40	31	47	51	50

(2010年5月20日現在) *はアルゼンチン、オーストラリア、カナダ、EU、アメリカ

(IGC)

[表2] 世界の小麦貿易量

(百万トン)

輸 入 国		07/08	08/09	09/10(推定)	01/11(予測)
ヨーロッパ	アルバニア	0.3	0.2	0.3	0.3
	EU-27	6.4	7.6	5.5	5.5
	ノルウェー	0.1	0.1	0.1	0.2
	スイス	0.4	0.4	0.3	0.2
	その他	0.7	0.6	0.4	0.5
	計	7.9	8.9	6.6	6.6
CIS	アゼルバイジャン	1.3	1.6	0.9	1.4
	ベラルーシ	0.1	0.1	0.1	0.3
	グルジア	0.7	0.5	0.8	0.9
	ロシア	0.3	0.1	0.2	0.2
	ウクライナ	0.3	0.1	T	0.1
	ウズベキスタン	1.0	1.5	1.4	1.3
	その他	2.2	2.5	1.7	1.6
	計	5.9	6.4	5.0	5.6
北・中 アメリカ	キューバ	0.9	0.8	0.7	0.8
	メキシコ	3.1	3.3	2.7	3.3
	アメリカ	2.5	3.0	2.0	1.9
	その他	2.8	2.8	2.9	3.0
	計	9.4	9.9	8.3	9.0
南アメリカ	ボリビア	0.3	0.4	0.3	0.3
	ブラジル	7.1	6.3	6.3	7.0
	チリー	0.7	0.9	0.9	0.7
	コロンビア	1.3	1.5	1.3	1.4
	エクワドル	0.5	0.5	0.5	0.5
	ペルー	1.4	1.4	1.5	1.6
	ベネズエラ	1.4	1.4	1.5	1.7
	その他	0.1	0.2	0.2	0.3
	計	12.9	12.6	12.4	13.5

輸 入 国		07/08	08/09	09/10(推定)	01/11(予測)		
近東アジア	イラン	0.1	8.9	3.0	1.8		
	イラク	3.5	3.9	3.9	4.1		
	イスラエル	1.2	2.0	1.9	1.7		
	ヨルダン	0.6	0.9	1.0	1.0		
	レバノン	0.3	0.5	0.4	0.4		
	サウジアラビア	0.1	1.3	1.8	2.1		
	シリア	0.1	1.5	2.0	1.0		
	トルコ	2.2	3.6	3.0	2.0		
	UAE	0.9	1.4	1.3	1.1		
	イエメン	2.0	2.8	2.1	2.2		
	その他	1.0	0.7	0.7	0.6		
	計	11.8	27.5	21.0	18.0		
極東アジア	太平洋アジア	中国	0.2	0.5	1.1	1.0	
		インドネシア	5.2	5.5	5.5	5.6	
		日本	5.7	4.9	5.3	5.2	
		北朝鮮	0.2	0.1	0.2	0.3	
		韓国	3.0	3.3	4.0	3.3	
		マレーシア	1.3	1.1	1.2	1.2	
		フィリピン	2.3	3.2	3.0	2.7	
		シンガポール	0.3	0.3	0.3	0.3	
		台湾	1.3	1.1	1.4	1.3	
		タイ	1.1	1.1	1.2	1.1	
		ベトナム	1.1	1.0	1.4	1.3	
	その他	0.8	0.8	0.8	1.0		
		計	22.3	22.9	25.5	24.3	
		南アジア	バングラデシュ	1.4	2.7	3.2	2.7
			インド	2.0	T	0.3	T
			パキスタン	1.5	3.0	0.2	1.3
	スリランカ		1.1	1.0	1.1	1.1	
	その他		1.2	2.2	2.1	2.1	
	計	7.2	8.9	6.9	7.1		
	計	29.5	31.7	32.3	31.4		
アフリカ	北アフリカ	アルジェリア	5.8	6.3	4.9	5.7	
		エジプト	7.6	9.8	9.0	8.5	
		リビア	1.9	2.1	1.8	1.7	
		モロッコ	4.1	3.7	1.8	4.3	
		チュニジア	2.3	1.8	1.5	2.0	
		計	21.8	23.7	19.0	22.3	

輸 入 国		07/08	08/09	09/10(推定)	01/11(予測)	
ア フ リ カ	サ ハ ラ 以 南	コートジボワール	0.3	0.4	0.4	0.4
		エチオピア	0.4	0.9	0.6	0.4
		ケニア	0.5	0.7	1.1	0.9
		ナイジェリア	2.6	3.5	3.6	3.6
		南アフリカ	1.4	1.5	1.5	1.4
		スーダン	1.1	1.7	1.7	1.6
		その他	4.5	5.7	5.5	5.3
	計	10.8	14.4	14.5	13.6	
計		32.5	38.0	33.5	35.8	
オ セ ア ニ ア	ニュージーランド	0.3	0.3	0.3	0.4	
	その他	0.4	0.3	0.4	0.4	
	計	0.7	0.6	0.7	0.8	
世 界 計		110.3	135.9	119.5	120.2	

注：年度は7月～6月、Tは5万トン以下
(2010年5月20日現在)

(百万トン)

輸出国	07/08	08/09	09/10(推定)	10/11(予測)
アルゼンチン	10.0	8.5	3.5	6.5
オーストラリア	7.5	13.5	13.7	13.5
カナダ	16.4	18.3	17.5	17.1
EU-27	11.2	24.5	19.5	18.9
アメリカ	34.3	26.5	22.9	23.8
中国	2.4	0.2	0.4	1.0
インド	0.1	T	T	0.9
パキスタン	1.0	1.4	0.6	0.8
カザフスタン	8.2	5.8	7.3	7.5
メキシコ	1.2	1.2	1.1	1.2
ロシア	12.1	18.3	18.0	18.0
シリア	0.2	T	0.1	0.1
トルコ	1.5	2.2	2.8	2.3
ウクライナ	1.2	12.9	9.4	6.5
その他	3.0	2.6	2.8	2.2
世界計	110.3	135.9	119.5	120.2

注：年度は7月～6月、Tは5万トン以下
(2010年5月20日現在)

(IGC)

[表3] 世界の小麦粉貿易量（デュラム・セモリナを除く）

（小麦換算、千トン）

地域・国名		06/07	07/08	08/09(推定)	09/10(予測)	
輸 入 国	ヨーロッパ ^{a)}	EU-27	14	17	35	40
		その他	70	49	67	30
		計	84	66	102	70
	CIS	グルジア	127	251	139	100
		タジキスタン	643	748	652	650
		ウズベキスタン	959	919	1,222	1,400
		その他	323	431	420	390
		計	2,052	2,349	2,432	2,540
	北・中 アメリカ	カナダ	119	194	165	180
		キューバ	217	261	191	150
		メキシコ	66	53	46	60
		アメリカ	299	259	235	235
		その他	64	56	81	95
		計	765	823	718	720
	南アメリカ	ボリビア	315	332	369	350
		ブラジル	663	1,076	871	900
		その他	73	94	118	100
		計	1,052	1,502	1,358	1,350
	近東アジア	イラク	857	602	1,031	1,100
		イエメン	165	100	154	180
その他		265	218	467	470	
計		1,287	920	1,652	1,750	
極東アジア	アフガニスタン	727	922	1,409	1,600	
	香港	435	386	348	370	
	インドネシア	790	726	782	800	
	北朝鮮	183	135	58	100	
	韓国	74	98	77	110	
	モンゴル	156	171	158	165	
	フィリピン	139	143	159	175	
	タイ	205	260	138	150	
	ベトナム	46	113	23	30	
	その他	317	487	258	350	
	計	3,072	3,443	3,409	3,850	
アフリカ	北 ア フリ カ	リビア	587	1,060	758	700
		その他	11	22	21	20
	計	598	1,082	780	720	

		地域・国名	06/07	07/08	08/09(推定)	09/10(予測)	
輸 入 国	アフリカ	サハラ以南	アンゴラ	452	493	524	500
			チャド	62	50	68	90
			エリトリア	71	36	6	10
			ガンビア	80	53	58	50
			ギニア	88	111	117	80
			スーダン	20	58	108	100
			その他	582	458	411	430
			計	1,354	1,258	1,293	1,260
	計		1,952	2,340	2,072	1,980	
	オセアニア		56	67	61	80	
不詳		374	339	452	260		
世界計			10,694	11,849	12,256	12,600	
輸 出 国	アルゼンチン		972	1,535	1,368	1,300	
	オーストラリア		337	273	185	150	
	カナダ		343	284	223	250	
	EU-27		1,314	1,227	1,482	1,300	
	アメリカ		418	479	314	450	
	中国		645	842	214	350	
	日本		393	315	245	250	
	カザフスタン		2,024	2,054	2,733	3,000	
	パキスタン		502	500	500	600	
	ロシア		322	548	665	450	
	トルコ		1,754	1,520	2,161	2,500	
	ウクライナ		21	310	309	200	
	アラブ首長国連邦		504	500	650	650	
その他		1,147	1,463	1,206	1,150		

(2010年5月25日現在) a) バルト諸国を含む

(IGC)

[表4] 世界の穀物の国別エタノール消費量

(百万トン)

国名	穀物の種類	2005/06	2006/07	2007/08	2008/09	2009/10 (推定)	2010/11 (予測)
アメリカ	トウモロコシ	40.7	53.8	77.5	93.4	111.8	116.8
	モロコシ	0.6	0.7	0.5	1.9	1.8	1.8
	計	41.3	54.5	78.0	95.3	113.6	118.6
EU	トウモロコシ	0.7	0.7	0.5	1.8	3.2	3.4
	小麦	1.4	1.4	1.6	2.9	4.8	6.1
	大麦	0.7	0.8	0.5	0.3	0.5	1.0
	計	3.1	3.3	2.9	5.2	8.7	10.7
カナダ	トウモロコシ	0.5	1.0	1.4	1.7	2.0	2.1
	小麦	0.2	0.3	0.3	0.6	0.5	0.6
	計	0.7	1.3	1.7	2.3	2.5	2.7
中国	トウモロコシ	3.4	4.0	4.1	4.1	4.2	4.2
	小麦	0.2	0.3	0.5	0.5	0.4	0.4
	モロコシ	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
	計	3.9	4.6	4.9	4.9	4.9	4.9
その他		0.3	0.6	0.8	1.0	1.1	1.2
世界	トウモロコシ	45.4	59.9	84.0	101.8	122.0	127.4
	小麦	1.8	2.0	2.4	4.0	5.8	7.2
	モロコシ	1.1	1.3	1.1	2.4	2.3	2.3
	大麦	0.7	0.8	0.5	0.3	0.5	1.0
	その他/不詳	0.3	0.4	0.2	0.2	0.2	0.2
	計	49.4	64.3	88.2	108.7	130.8	138.1

(2010年5月25日現在)

(IGC)

[表5] アメリカの小麦需給

(千トン)

項 目		2010-11	2009-10	2008-09	2007-08	
供給	前年度からの繰越	25,855	17,881	8,328	12,410	
	生産	55,601	60,310	68,012	55,819	
	輸入	2,994	3,130	3,456	3,075	
	計	84,450	81,320	79,796	71,305	
需要	国内消費	食用	25,583	25,038	25,229	25,800
		種子用	2,068	1,987	2,041	2,395
		飼料用	5,171	4,899	7,022	435
		計	32,822	31,924	34,292	28,603
	輸出	24,494	23,541	27,624	34,373	
	計	57,316	55,465	61,915	62,977	
期末在庫		27,134	25,855	17,881	8,328	

(2010年5月11日現在)

(USDA)

製粉工場における玄麦および小麦粉の月別需給動向(22年度)
(単位：千トン、前年比%)

年月	玄			麦			小麦			粉		
	買入数量	対前年比	加工量	対前年比	月末在庫	対前年比	生産量	対前年比	販売量	対前年比	月末在庫	対前年比
平成16年度	6,141	100.0	6,099	99.4	451	110.5	4,667	100.1	4,664	99.9	274	101.1
平成17年度	6,039	98.3	6,030	98.9	461	102.2	4,623	99.1	4,615	99.0	282	102.9
平成18年度	6,271	103.8	5,982	99.2	751	162.9	4,599	99.5	4,594	99.0	287	101.8
平成19年度	5,901	94.1	6,037	100.9	616	82.0	4,684	101.8	4,677	101.8	293	102.1
平成20年度	5,748	97.4	5,848	96.9	517	83.9	4,564	97.4	4,575	97.8	282	96.3
平成21年度	5,802	101.1	5,916	101.4	405	78.2	4,612	101.1	4,620	101.0	274	97.1
21.4	432	92.3	532	96.0	419	78.9	411	94.8	409	94.7	283	96.4
5	507	100.3	486	100.3	440	79.8	380	101.0	373	102.3	290	95.0
6	440	86.7	482	107.7	397	65.0	371	106.4	380	104.8	280	96.5
7	536	95.3	488	101.5	446	64.3	379	102.1	384	100.6	275	98.3
期計	1,915	93.7	1,989	101.0			1,540	100.8	1,547	100.4		
8	451	91.1	465	99.5	431	59.8	365	100.8	362	101.0	279	98.1
9	462	61.1	486	96.6	407	41.8	378	98.0	387	99.9	270	95.3
10	525	178.1	520	95.6	413	56.9	406	94.3	397	90.9	279	100.8
11	510	118.3	494	100.7	429	64.4	389	100.7	388	109.4	280	90.8
期計	1,948	98.5	1,965	98.0			1,538	98.3	1,533	99.8		
12	539	133.1	536	112.2	432	72.8	417	102.7	423	105.6	274	87.3
22.1	445	111.6	461	101.0	417	77.7	362	107.0	339	96.6	297	98.6
2	444	90.4	450	101.7	411	70.2	351	101.7	357	102.8	292	97.3
3	510	121.5	516	105.8	405	78.2	404	106.1	422	105.8	274	97.1
期計	1,939	113.0	1,963	105.3			1,534	104.3	1,540	102.9		
22.4	505	116.8	543	102.0	368	87.7	428	104.1	425	103.8	277	97.6
5	534	105.4	489	100.6	413	93.9	385	101.2	372	99.5	290	99.9
6												
7												
期計												
8												
9												
10												
11												
期計												
12												
23.1												
2												
3												
期計												
年度計												

(注) 1. 玄麦の買入・加工数量にはSBSでの買受分(19年度から)、大臣証明制度による輸出見返り分、納付金輸入分、民間流通麦及びその他国内産麦を含み、小麦粉の生産・販売量は、輸出入を除いた数量である。
 2. 「製粉・精麦・麦茶工場需給実態報告」(総合食料局食糧貿易課)による。
 3. 四捨五入の関係で内訳と計が一致しないことがある。

外国産小麦の種類別銘柄別買受実績（主食用）

月別	4月		5月		合計	
種類別 銘柄別	数量 (t)	前年比 (%)	数量 (t)	前年比 (%)	数量 (t)	前年比 (%)
W W	80,933	134	67,220	116	148,153	125
A S W	79,741	120	74,705	124	154,446	122
S 計	160,674	126	141,925	120	302,599	123
HRW (11.5%)	68,191	90	72,448	101	140,639	95
S H 計	68,191	90	72,448	101	140,639	95
C W	77,542	270	64,281	119	141,823	172
P H	0		0		0	
D N S	120,596	110	115,706	113	236,302	111
C a D u	0		0		0	
H 計	198,138	143	179,987	115	378,125	128
外小麦合計	427,002	125	394,359	114	821,363	119

総合食料局食糧貿易課資料

(参考)

外国産小麦の年度別・種類別・銘柄別買受実績（主食用）

(単位：トン、%)

年度別 種類別・銘柄別	18年度		19年度		20年度		21年度	
	数量	%	数量	%	数量	%	数量	%
W W	435,018	91	744,134	171	684,931	92	752,223	109
A S W	970,178	117	669,226	69	693,871	104	809,465	117
S 計	1,405,196	107	1,413,360	101	1,378,802	98	1,561,688	113
HRW(11.5%)	872,205	119	869,305	100	747,349	86	857,542	115
S H 計	872,205	119	869,305	100	747,349	86	857,542	115
C W	879,627	96	895,629	102	832,098	93	673,810	81
HRW (13%)	104,143	69						
P H	266,215	109	151,994	57	0		0	
D N S	1,273,507	108	1,196,802	94	1,263,963	106	1,292,452	102
C a D u	226,033	114	152,232	57	0		0	
H 計	2,749,525	101	2,396,602	87	2,096,061	87	1,966,262	94
外小麦合計	5,026,927	106	4,679,262	93	4,222,211	90	4,385,493	104

国際価格の推移

(単位：トン当たりドル、()内はブッシェル当たりドル)

品名	年	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
小麦 (シカゴ・SRW小麦No.2, 期近もの)	2002	2002	(3.02)	(2.81)	(2.82)	(2.72)	(2.84)	(2.94)	(3.24)	(3.51)	(4.01)	(3.93)	(3.90)	(3.55)
			111	103	104	100	104	108	119	129	147	144	143	130
			(3.13)	(3.34)	(3.00)	(2.86)	(3.22)	(3.16)	(3.15)	(3.79)	(3.56)	(3.35)	(4.06)	(3.87)
			115	123	110	105	118	116	116	139	131	123	149	142
			(3.86)	(3.75)	(3.73)	(3.83)	(3.54)	(3.51)	(3.33)	(3.03)	(3.37)	(3.19)	(3.06)	(3.03)
			142	138	137	141	130	129	122	111	124	117	112	111
			(2.98)	(3.00)	(3.68)	(3.09)	(3.06)	(3.23)	(3.49)	(3.16)	(3.23)	(3.39)	(3.07)	(3.19)
			109	110	135	114	113	119	128	119	125	125	113	117
			(3.29)	(3.52)	(3.62)	(3.50)	(4.00)	(3.62)	(3.66)	(3.77)	(3.93)	(5.43)	(4.82)	(4.94)
			121	129	133	129	147	133	134	138	144	199	177	182
			(4.64)	(4.53)	(4.61)	(4.88)	(4.97)	(6.07)	(6.02)	(6.97)	(8.46)	(9.53)	(7.78)	(8.55)
			170	167	169	179	183	223	221	256	311	350	282	314
とうもろこし (シカゴ, イエロー・ コーンNo.2, 期近もの)	2002	2002	(2.07)	(2.05)	(2.04)	(1.99)	(2.06)	(2.12)	(2.33)	(2.59)	(2.68)	(2.52)	(2.43)	(2.38)
			82	81	80	78	81	84	92	102	106	99	96	94
			(2.36)	(2.36)	(2.33)	(2.39)	(2.46)	(2.39)	(2.15)	(2.20)	(2.29)	(2.26)	(2.37)	(2.47)
			93	93	92	94	97	94	85	87	90	89	93	97
			(2.67)	(2.83)	(3.02)	(3.16)	(3.00)	(2.86)	(2.36)	(2.25)	(2.14)	(2.06)	(1.99)	(2.00)
			105	112	119	125	118	113	93	89	84	81	78	79
			(2.00)	(2.00)	(2.14)	(2.08)	(2.08)	(2.22)	(2.37)	(2.15)	(2.04)	(2.02)	(1.93)	(2.02)
			79	79	84	82	82	87	93	85	80	80	76	80
			(2.13)	(2.23)	(2.24)	(2.37)	(2.45)	(2.38)	(2.44)	(2.30)	(2.42)	(3.03)	(3.56)	(3.70)
			84	88	88	93	97	94	96	91	95	119	140	146
			(3.91)	(4.11)	(4.02)	(3.62)	(3.70)	(3.81)	(3.26)	(3.31)	(3.51)	(3.69)	(3.69)	(3.86)
			154	162	158	142	146	150	128	130	138	145	145	152
(5.08)	(5.01)	(5.56)	(6.06)	(5.91)	(7.33)	(6.47)	(5.30)	(5.62)	(3.88)	(3.86)	(3.75)			
200	203	215	239	236	288	255	209	221	153	152	148			
(3.65)	(3.63)	(3.92)	(3.94)	(4.17)	(4.06)	(3.30)	(3.19)	(3.47)	(3.73)	(3.91)	(4.08)			
144	143	154	155	164	160	130	126	136	147	154	160			
(3.72)	(3.62)	(3.63)	(3.64)	(3.63)	(3.54)	(3.92)								
2010	146	142	143	143	139	154								

(注) 1. 小麦は、シカゴ相場による月央の終値である(2010年7月分は、7月15日)。
 2. とうもろこしはシカゴ相場による月平均価格である。

輸入食糧小麦の入札結果(港湾諸経費を除く)の概要

(単位: トン、円/ドル当たり)

入札月および積月		平成21年8月及び9月入札分 (積月: 11月積み)			平成21年10月入札分 (積月: 12月積み)			平成21年11月及び12月入札分 (積月: 1月積み)			平成21年12月入札分 (積月: 2月積み)			平成22年1月入札分 (積月: 3月積み)		
産地	銘柄	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格
アメリカ	WW	86,000	25,099	26,354	76,000	25,072	26,326	74,000	23,813	25,004	68,000	24,257	25,470	67,000	24,667	25,900
	SH	83,000	24,127	25,333	78,000	23,800	24,990	81,000	24,418	25,639	53,000	24,424	25,645	65,000	24,508	25,733
	DNS	158,000	28,652	30,085	113,000	28,653	30,086	122,000	29,852	31,345	116,000	28,415	29,836	110,000	28,758	30,197
	小計	327,000	26,569	27,897	267,000	26,216	27,527	277,000	26,650	27,983	237,000	26,329	27,645	242,000	26,484	27,808
カナダ	1CW	84,000	29,793	31,283	63,000	31,132	32,689	21,000	31,173	32,732	40,000	30,101	31,606	42,000	27,466	28,839
	Durum	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オーストラリア	小計	84,000	29,793	31,283	63,000	31,132	32,689	21,000	31,173	32,732	40,000	30,101	31,606	42,000	27,466	28,839
	ASW	126,000	25,471	26,745	84,000	22,070	23,174	63,000	22,908	24,053	80,000	23,677	24,861	45,000	24,207	25,417
	PH	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	126,000	25,471	26,745	84,000	22,070	23,174	63,000	22,908	24,053	80,000	23,677	24,861	45,000	24,207	25,417
	計	537,000	26,816	28,157	414,000	26,123	27,429	361,000	26,260	27,573	357,000	26,158	27,466	329,000	26,298	27,613

入札月および積月		平成22年2月入札分 (積月: 4月積み)			平成22年3月及び4月入札分 (積月: 5月積み)			平成22年4月入札分 (積月: 6月積み)			平成22年5月入札分 (積月: 7月積み)			平成22年6月入札分 (積月: 8月積み)		
産地	銘柄	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格	数量	落札価格 (加重平均) ※税別	※左の税込み 価格
アメリカ	WW	42,000	24,536	25,763	80,000	24,450	25,673	69,000	25,729	27,015	70,000	25,227	26,488	81,000	22,434	23,556
	SH	56,000	23,933	25,130	85,000	24,088	25,292	75,000	25,042	26,294	49,000	24,327	25,543	51,000	22,685	23,819
	DNS	92,000	28,773	30,212	120,000	29,809	31,299	106,000	30,253	31,766	136,000	28,467	29,890	150,000	28,686	30,120
	小計	190,000	26,410	27,731	285,000	26,598	27,928	250,000	27,441	28,813	255,000	26,728	28,121	282,000	25,805	27,095
カナダ	1CW	40,000	29,508	30,983	92,000	29,240	30,702	92,000	31,735	33,322	81,000	29,703	31,181	65,000	28,848	30,290
	Durum	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	40,000	29,508	30,983	92,000	29,240	30,702	92,000	31,735	33,322	81,000	29,703	31,181	65,000	28,848	30,290
オーストラリア	ASW	60,000	24,422	25,643	88,000	25,487	26,761	84,000	24,973	26,222	84,000	23,855	25,048	56,000	23,596	24,776
	PH	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	60,000	24,422	25,643	88,000	25,487	26,761	84,000	24,973	26,222	84,000	23,855	25,048	56,000	23,596	24,776
	計	290,000	26,426	27,747	465,000	26,911	28,257	426,000	27,882	29,276	420,000	26,760	28,098	403,000	25,989	27,288

(注) 上表の詳細は、農林水産省ホームページ「申請・お問い合わせ」を参照し、次に「調達・入札」の「調達情報・公表事項」を参照して、「契約に係る情報の公表」を参照し、「食料安定供給特別会計」を参照し(アドレス: <http://www.maitf.go.jp/supply/kouhyou/keiyaku/kyokyu.html>)、「米管理動定・業務動定」を参照し、「米管理動定」の「一般競争入札・指名競争入札」を参照して輸入小麦に該当する箇所をご覧ください。
(資料: 農林水産省総合食料局食糧買戻課)

農林水産省大臣官房統計部
平成22年7月9日公表

農業経営統計調査 平成21年産 小麦生産費(個別経営) — 抜粋 —

—平成21年産小麦の10a当たり全算入生産費は、1.8%減少
60kg当たり全算入生産費は、24.8%増加—

【調査結果の概要】

- 1 平成21年産小麦の10a当たり資本利子・地代全額算入生産費(以下「全算入生産費」という。)は6万267円で、前年に比べ1.8%減少し、60kg当たり全算入生産費は1万49円で、前年に比べ24.8%増加した。
- 2 10a当たり全算入生産費が減少したのは、物財費は増加したものの、労働費が減少したこと等による。

図 主要費目の構成割合 (10a当たり)

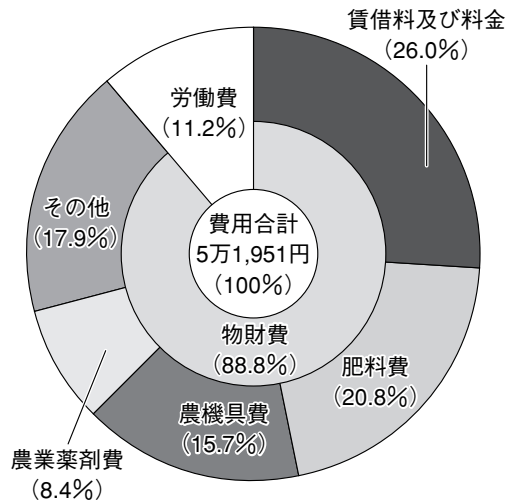


表1 平成21年産小麦生産費 (個別経営)

区 分		10 a 当 たり		60 kg 当 たり	
		実 数	対前年増減率	実 数	対前年増減率
生 産 費	物 財 費	46,132	0.3	7,692	27.4
	う ち 賃 借 料 及 び 料 金	13,493	△ 7.4	2,249	17.6
	肥 料 費	10,803	23.7	1,802	57.0
	労 働 費	5,819	△ 2.8	970	23.7
	費 用 合 計	51,951	0.0	8,662	27.0
	生 産 費 (副 産 物 価 額 差 引)	48,196	△ 2.0	8,037	24.5
	支 払 利 子 ・ 地 代 算 入 生 産 費	51,955	△ 1.4	8,664	25.3
資 本 利 子 ・ 地 代 全 額 算 入 生 産 費	60,267	△ 1.8	10,049	24.8	
収 量 (kg)	359	△ 21.4	—	—	
1 経 営 体 (戸) 当 たり 作 付 面 積 (a)	664.4	△ 1.2	—	—	

—「ソフト＆ハード」(読者の欄)への投稿のお願い—

読者の皆様、当振興会の広報誌「製粉振興」の内容を、より親しみのもてるものにするために、次のような内容の投稿をお待ちしていますので、記事をお寄せ下さい。

また、この広報誌の内容の充実を図っていきたくて考えていますので、ご意見等がございましたらお寄せ下さい。

- ・テーマは、小麦や小麦粉製品についての随想、紹介等とありますが、小麦と関係のない趣味などの話でも結構です
- ・投稿者名は実名でも筆名でも結構です
- ・長さは1,200字程度(1頁)とします
- ・掲載分には薄謝を進呈します



「コナちゃん」

(マスコットの小麦粉の精)

★ 編集後記

- 梅雨の異常豪雨で、全国各地が大きな被害に遭った。
気象用語の「異常」の文字が異常に多い気がした梅雨であった。その梅雨が明けた途端、連日の猛暑である。各地の観測記録を塗り変える真夏日が続いている。人間の適応能力を超えるような気象変動である。
- 社会においても異常な空気の揺れが起こり、参院選の結果は与野党捻れ現象となった。結果は、政策の実行に対する影響が懸念される。
この10月から実施予定の麦の新たな制度が、捻れ現象の巻添えとならないように強く望むところである。
- 最近、食卓に新鮮な塩もみ茄子が並ぶ。ベランダで栽培している水茄子に多数の果実がついた。手摺寄りに一段高くして発砲スチロールの箱を連ね、15～6本の苗が並ぶ。枝葉の下に5～10センチの果実がずらっとついた。夏の日差しを受け、濃紺紫色の枝に鮮やかな緑の葉が綺麗だ。
ベランダの太陽反射光が茄子の葉で緩和され、室内に吹き込む空気が爽やかで涼しく気持ちいい。
- ヴィンテージとは、一般にはワインについて評することだが、機器の古年代のものを指すこともある。
オーディオ機器を繋ぐコード類の線材は銅が一般的である。中には銀線もある。銅の純度を0.9999999位まで上げて作成したものもある。
しかし、新しい材質を使用し科学的に純度を上げて音楽を聴くのに、必ず良い結果を生むとは限らない。
鉾石から精錬した最初の銅を使用して、100年程昔に製造された銅線。
現在の製品ほど純度は高くないが、銅材の能力はひょっとすると遥かに高いかもしれない。最近、1920年～1940年頃の線材から作成されたコードが手に入った。我家の愛器に接続しjazzを聴いてみた。
今まで経験したことのない、澄んだシットリ落ち着いた音楽が耳に入り込んできた。音楽は感性であることは承知しているが、まるで100年前にタイムスリップしたように感じた。……ヴィンテージ物である。……

製粉振興 7月号 (No.523)

発行／平成22年7月20日

編集発行人／落合通人

発行所／財団法人 製粉振興会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町15番6号
製粉会館2階

Tel.(03)3666-2712(代表)

<http://www.seifun.or.jp>

Fax.(03)3667-1883

E-mail:seifunshin@mri.biglobe.ne.jp

禁無断転載